

第3章

地域別構想

第3章 地域別構想

1. 地域別構想の概要

(1) 地域別構想とは

地域別構想は、「全体構想」を基本として、地域ごとに都市整備の目標と地区整備の指針を示すことを目的として策定するものです。

(2) 地域区分

地域別構想は、第5次和歌山市長期総合計画の10地域の地域割りをもとに、中心部地域については、地域割りの4つブロック（ブロック6・8・9・10）を1地域としてまとめ、7つの地域を対象に策定します。

地 域	面積	構成地区
① 中心部地域	22.08 km ²	宮、宮前、宮北（ブロック6） 吹上、砂山、今福、高松（ブロック8） 本町、城北、雄湊、中之島（ブロック9） 新南、大新、広瀬、芦原（ブロック10）
② 北西部地域	32.78 km ²	松江、木本、西脇、加太（ブロック1）
③ 北部地域	22.84 km ²	貴志、野崎、湊、楠見（ブロック2）
④ 北東部地域	46.88 km ²	有功、直川、川永、山口、紀伊（ブロック3）
⑤ 東部地域	28.56 km ²	西和佐、和佐、小倉、四箇郷（ブロック4）
⑥ 南東部地域	39.85 km ²	三田、岡崎、安原、西山東、東山東（ブロック5）
⑦ 南部地域	17.31 km ²	雑賀、雑賀崎、田野、和歌浦、名草（ブロック7）

※各地域面積は和歌山市統計資料より算出



地域割り図

(3) 地域別の人口・世帯数の動向**1) 地域別の人口・世帯数と人口密度**

地域別人口が最も多いのは中心部地域であり、約10万5千人となっています。次いで北部地域が5万9千人、南部地域が約4万7千人となっています。

その他の地域をみると、北西部地域が約4万3千人、北東部地域が約3万9千人、東部地域が約3万7千人で、最も少ないのは南東部地域が約3万3千人となっています。

地域別世帯数についても人口と同様の傾向となっており、最も多いのは中心部地域の約4万8千世帯、次いで北部地域の約2万5千世帯、南部地域が約2万世帯となっています。

その他の地域をみると、北西部地域が約1万8千世帯、北東部地域が約1万6千世帯、東部地域が約1万4千世帯で、最も少ないのは南東部地域の約1万3千世帯となっています。

(下表は、平成27年国勢調査)

① 中心部地域

	人口 (人)	世帯数 (世帯)
宮 地 区	23,026	9,890
宮 前 地 区	15,692	6,792
宮 北 地 区	6,577	3,273
吹 上 地 区	5,883	2,649
砂 山 地 区	7,274	3,261
今 福 地 区	3,999	1,804
高 松 地 区	7,889	3,501
本 町 地 区	3,400	1,639
城 北 地 区	4,395	2,283
雄 湊 地 区	5,504	2,523
中 之 島 地 区	6,830	3,224
新 南 地 区	4,177	2,075
大 新 地 区	2,989	1,530
広 瀬 地 区	5,448	2,602
芦 原 地 区	2,292	1,239
計	105,375	48,285

② 北西部地域

	人口 (人)	世帯数 (世帯)
松 江 地 区	9,442	3,894
木 本 地 区	17,908	7,362
西 脇 地 区	12,986	4,968
加 太 地 区	2,887	1,309
計	43,223	17,533

③ 北部地域

	人口（人）	世帯数（世帯）
貴志地区	20,173	8,240
野崎地区	16,614	7,273
湊地区	2,998	1,259
楠見地区	19,461	8,162
計	59,246	24,934

④ 北東部地域

	人口（人）	世帯数（世帯）
有功地区	16,393	6,825
直川地区	3,752	1,553
川永地区	5,932	2,321
山口地区	3,103	1,054
紀伊地区	10,094	3,924
計	39,274	15,677

⑤ 東部地域

	人口（人）	世帯数（世帯）
西和佐地区	5,956	2,321
和佐地区	6,189	2,347
小倉地区	7,971	2,920
四箇郷地区	16,825	6,847
計	36,941	14,435

⑥ 南東部地域

	人口（人）	世帯数（世帯）
三田地区	7,300	2,767
岡崎地区	9,055	3,645
安原地区	8,986	3,162
西山東地区	5,139	2,039
東山東地区	2,998	933
計	33,478	12,546

⑦ 南部地域

	人口（人）	世帯数（世帯）
雑賀地区	17,250	7,025
雑賀崎地区	1,278	599
田野地区	626	252
和歌浦地区	8,696	3,865
名草地区	18,767	7,938
計	46,617	19,679

2) 地域別人口の推移

過去約20年間の人口推移をみると、人口が増加しているのは東部地域と南東部地域のみであり、その他の地域は減少しています。特に南部地域、中心部地域、北西部地域の減少の傾向が大きくなっています。

直近5年間の人口推移をみると、最も増加しているのは南東部地域となっています。その他に増加しているのは北部地域、北東部地域、東部地域となっています。人口が最も減少しているのは南部地域で、その他に減少しているのは中心部地域、北西部地域となっています。

市街化調整区域を含めて農地の宅地化が進行して市街化区域外周部の人口が増加していますが、既成市街地ではそれを越える人口減少が継続しており、和歌山市全体の人口減少が継続しています。

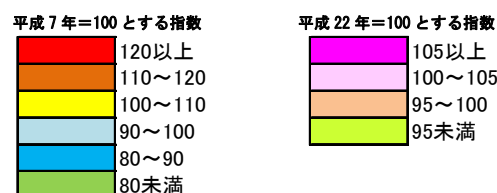
なお、貴志地区では住宅地開発が行われた区域を中心に人口が大きく増加しています。
(下表は、平成7年～27年国勢調査)

① 中心部地域

	人口(人)					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
宮地区	23,711	23,750	23,329	23,551	23,026	100.2	98.4	99.3	97.1	97.8
宮前地区	16,206	16,206	16,112	16,164	15,692	100.0	99.4	99.7	96.8	97.1
宮北地区	6,339	6,111	6,417	6,448	6,577	96.4	101.2	101.7	103.8	102.0
吹上地区	7,671	7,218	6,957	6,378	5,883	94.1	90.7	83.1	76.7	92.2
砂山地区	8,646	8,042	7,703	7,733	7,274	93.0	89.1	89.4	84.1	94.1
今福地区	5,133	4,744	4,324	4,189	3,999	92.4	84.2	81.6	77.9	95.5
高松地区	8,809	8,274	7,921	7,925	7,889	93.9	89.9	90.0	89.6	99.5
本町地区	4,638	4,120	3,721	3,645	3,400	88.8	80.2	78.6	73.3	93.3
城北地区	5,980	5,525	5,180	4,947	4,395	92.4	86.6	82.7	73.5	88.8
雄湊地区	6,947	6,376	5,928	5,642	5,504	91.8	85.3	81.2	79.2	97.6
中之島地区	8,146	7,383	6,827	6,852	6,830	90.6	83.8	84.1	83.8	99.7
新南地区	4,874	4,608	4,207	4,269	4,177	94.5	86.3	87.6	85.7	97.8
大新地区	4,148	3,669	3,361	3,401	2,989	88.5	81.0	82.0	72.1	87.9
広瀬地区	6,071	5,937	5,894	5,521	5,448	97.8	97.1	90.9	89.7	98.7
芦原地区	3,341	3,071	2,903	2,600	2,292	91.9	86.9	77.8	68.6	88.2
計	120,660	115,034	110,784	109,265	105,375	95.3	91.8	90.6	87.3	96.4

② 北西部地域

	人口(人)					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
松江地区	10,732	10,675	10,405	10,307	9,442	99.5	97.0	96.0	88.0	91.6
木本地区	20,165	19,465	18,550	17,907	17,908	96.5	92.0	88.8	88.8	100.0
西脇地区	12,925	13,251	13,308	12,985	12,986	102.5	103.0	100.5	100.5	100.0
加太地区	4,515	4,271	3,897	3,408	2,887	94.6	86.3	75.5	63.9	84.7
計	48,337	47,662	46,160	44,607	43,223	98.6	95.5	92.3	89.4	96.9



③ 北部地域

	人口（人）					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
貴志地区	15,258	15,794	16,731	18,853	20,173	103.5	109.7	123.6	132.2	107.0
野崎地区	19,143	18,627	17,663	17,045	16,614	97.3	92.3	89.0	86.8	97.5
湊地区	3,652	3,479	3,277	3,090	2,998	95.3	89.7	84.6	82.1	97.0
楠見地区	21,750	21,169	20,557	19,790	19,461	97.3	94.5	91.0	89.5	98.3
計	59,803	59,069	58,228	58,778	59,246	98.8	97.4	98.3	99.1	100.8

④ 北東部地域

	人口（人）					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
有功地区	19,739	19,347	18,306	17,208	16,393	98.0	92.7	87.2	83.0	95.3
直川地区	4,103	3,920	3,891	3,764	3,752	95.5	94.8	91.7	91.4	99.7
川永地区	5,616	5,943	5,828	6,262	5,932	105.8	103.8	111.5	105.6	94.7
山口地区	2,584	2,478	2,440	2,529	3,103	95.9	94.4	97.9	120.1	122.7
紀伊地区	9,946	10,105	9,874	9,501	10,094	101.6	99.3	95.5	101.5	106.2
計	41,988	41,793	40,339	39,264	39,274	99.5	96.1	93.5	93.5	100.0

⑤ 東部地域

	人口（人）					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
西和佐地区	5,317	5,134	5,234	5,414	5,956	96.6	98.4	101.8	112.0	110.0
和佐地区	6,157	6,297	6,157	6,136	6,189	102.3	100.0	99.7	100.5	100.9
小倉地区	7,859	8,443	8,296	7,995	7,971	107.4	105.6	101.7	101.4	99.7
四箇郷地区	16,658	16,958	16,860	16,954	16,825	101.8	101.2	101.8	101.0	99.2
計	35,991	36,832	36,547	36,499	36,941	102.3	101.5	101.4	102.6	101.2

⑥ 南東部地域

	人口（人）					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
三田地区	7,215	7,259	7,107	7,315	7,300	100.6	98.5	101.4	101.2	99.8
岡崎地区	8,645	8,674	8,662	8,878	9,055	100.3	100.2	102.7	104.7	102.0
安原地区	7,876	7,760	7,835	8,314	8,986	98.5	99.5	105.6	114.1	108.1
西山東地区	6,599	6,266	5,596	5,434	5,139	95.0	84.8	82.3	77.9	94.6
東山東地区	3,114	3,141	3,031	2,944	2,998	100.9	97.3	94.5	96.3	101.8
計	33,449	33,100	32,231	32,885	33,478	99.0	96.4	98.3	100.1	101.8

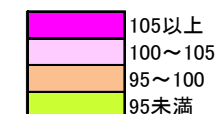
⑦ 南部地域

	人口（人）					平成7年=100とする指数				H22=100
	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年
雑賀地区	20,036	19,184	18,453	17,496	17,250	95.7	92.1	87.3	86.1	98.6
雑賀崎地区	2,038	1,870	1,692	1,480	1,278	91.8	83.0	72.6	62.7	86.4
田野地区	859	844	810	699	626	98.3	94.3	81.4	72.9	89.6
和歌浦地区	11,656	11,114	10,265	9,502	8,696	95.4	88.1	81.5	74.6	91.5
名草地区	19,068	20,049	20,082	19,889	18,767	105.1	105.3	104.3	98.4	94.4
計	53,657	53,061	51,302	49,066	46,617	98.9	95.6	91.4	86.9	95.0

平成7年=100とする指数



平成22年=100とする指数



3) 地域別年齢階級別人口

高齢人口の割合をみると、最も高いのは中心部地域、北東部地域の30.8%となっており、次いで南部地域の30.7%となっています。最も低いのは北部地域の25.1%となっています。

年少人口の割合をみると、最も高いのが北部地域の14.3%で、次いで東部地域の13.3%となっています。最も低いのは中心部地域の11.0%となっています。

中心市街地を含む既成市街地の高齢化が顕著であり、新たに形成された市街地を含む郊外部地域の高齢化率が低くなっています。高齢化率が高い地域では人口の自然減が進むため、新たな人口流入がなければ既成市街地の活性化が困難になると予想されます。

(下表は、平成27年国勢調査 - 年齢不詳は除く -)

① 中心部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
宮地区	2,846	12.4%	13,716	59.9%	6,330	27.7%
宮前地区	1,881	12.1%	9,097	58.5%	4,584	29.5%
宮北地区	680	10.4%	4,122	63.1%	1,732	26.5%
吹上地区	641	10.9%	3,303	56.4%	1,917	32.7%
砂山地区	821	11.3%	4,301	59.4%	2,114	29.2%
今福地区	425	10.6%	2,172	54.4%	1,398	35.0%
高松地区	953	12.2%	4,380	55.9%	2,497	31.9%
本町地区	271	8.0%	1,802	53.5%	1,296	38.5%
城北地区	319	7.3%	2,533	58.0%	1,514	34.7%
雄湊地区	535	9.8%	3,063	56.0%	1,872	34.2%
中之島地区	801	11.9%	3,936	58.5%	1,992	29.6%
新南地区	379	9.1%	2,525	60.9%	1,241	29.9%
大新地区	215	7.3%	1,700	57.5%	1,040	35.2%
広瀬地区	496	9.2%	2,991	55.4%	1,912	35.4%
芦原地区	215	9.4%	1,270	55.8%	793	34.8%
計	11,478	11.0%	60,911	58.2%	32,232	30.8%

② 北西部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
松江地区	1,159	12.3%	5,498	58.3%	2,769	29.4%
木本地区	2,032	11.4%	10,608	59.5%	5,200	29.1%
西脇地区	1,807	14.0%	7,339	56.8%	3,779	29.2%
加太地区	172	6.0%	1,418	49.2%	1,290	44.8%
計	5,170	12.0%	24,863	57.7%	13,038	30.3%

高齢化率	
	35%以上
	30%~35%
	25%~30%
	25%以下

③ 北部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
貴志地区	3,816	19.1%	12,569	62.8%	3,626	18.1%
野崎地区	1,900	11.5%	9,810	59.5%	4,769	28.9%
湊地区	349	11.7%	1,742	58.2%	900	30.1%
楠見地区	2,320	12.0%	11,541	59.7%	5,472	28.3%
計	8,385	14.3%	35,662	60.6%	14,767	25.1%

④ 北東部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
有功地区	1,829	11.2%	9,601	58.9%	4,873	29.9%
直川地区	484	12.9%	2,113	56.5%	1,145	30.6%
川永地区	858	14.5%	3,279	55.4%	1,787	30.2%
山口地区	504	16.3%	1,688	54.5%	907	29.3%
紀伊地区	1,238	12.3%	5,511	54.7%	3,330	33.0%
計	4,913	12.6%	22,192	56.7%	12,042	30.8%

⑤ 東部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
西和佐地区	887	14.9%	3,525	59.4%	1,524	25.7%
和佐地区	1,437	16.0%	5,143	57.4%	2,382	26.6%
小倉地区	883	11.1%	4,624	58.1%	2,450	30.8%
四箇郷地区	2,047	12.2%	10,206	61.0%	4,482	26.8%
計	5,254	13.3%	23,498	59.4%	10,838	27.4%

⑥ 南東部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
三田地区	994	13.7%	4,293	59.2%	1,967	27.1%
岡崎地区	1,212	13.4%	5,398	59.7%	2,425	26.8%
安原地区	880	14.3%	3,643	59.1%	1,646	26.7%
西山東地区	363	12.1%	1,552	51.8%	1,083	36.1%
東山東地区	587	11.4%	2,882	56.1%	1,664	32.4%
計	4,036	13.2%	17,768	58.1%	8,785	28.7%

⑦ 南部地域

	年少人口(0~14歳)		生産年齢人口(15~64歳)		高齢人口(65歳以上)	
	人口(人)	率	人口(人)	率	人口(人)	率
雑賀地区	2,099	12.2%	10,191	59.3%	4,904	28.5%
雑賀崎地区	94	7.4%	606	47.4%	578	45.2%
田野地区	39	6.2%	215	34.3%	372	59.4%
和歌浦地区	791	9.1%	4,628	53.5%	3,228	37.3%
名草地区	2,260	12.1%	11,219	60.2%	5,170	27.7%
計	5,283	11.4%	26,859	57.9%	14,252	30.7%

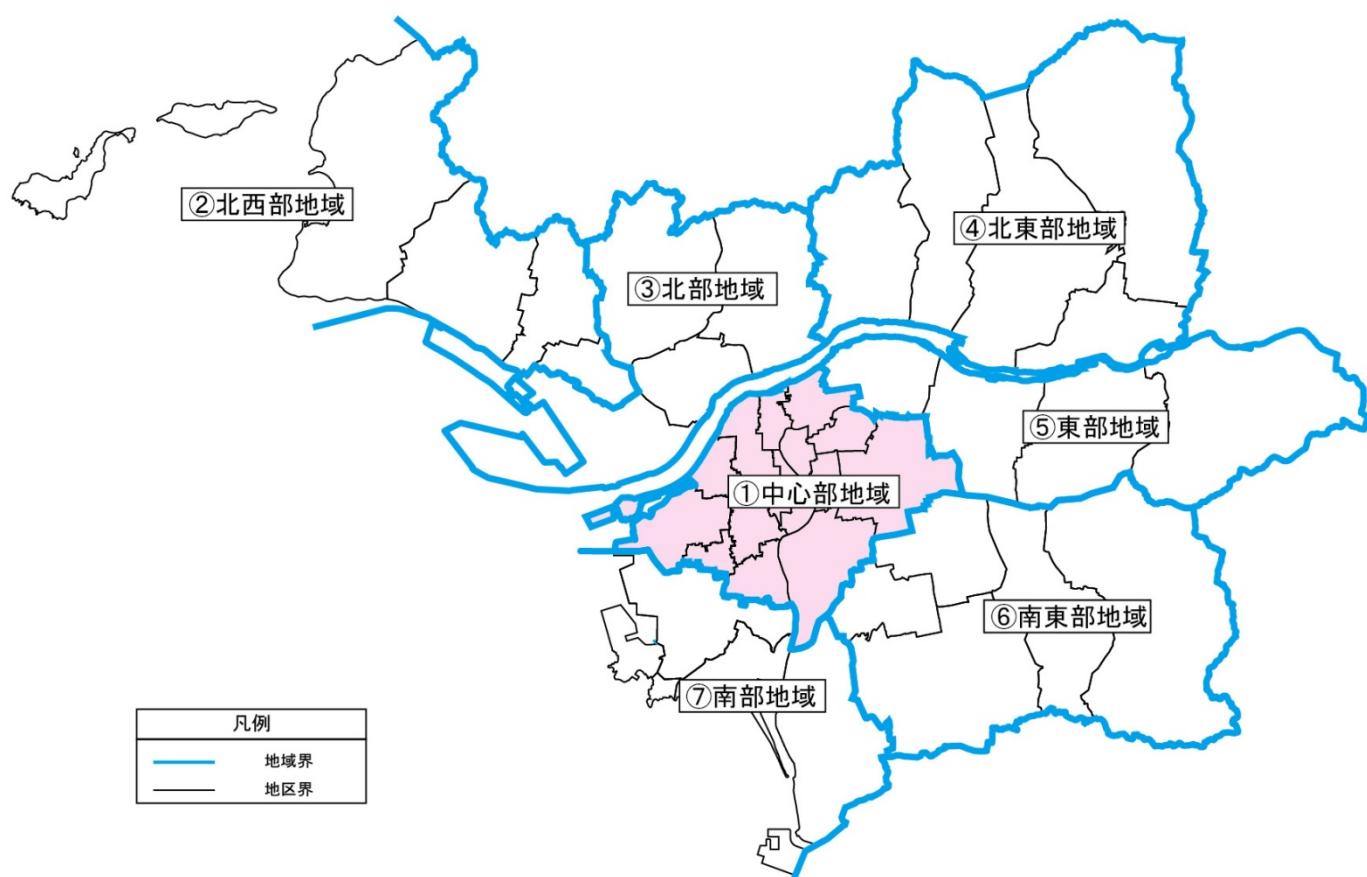
高齢化率	
35%以上	30%~35%
25%~30%	25%以下

(4) 地域の将来像とまちづくりのテーマ

各地域における都市の現況を踏まえ、7つの地域ごとに地域の将来像とまちづくりのテーマを掲げ、特色あるまちづくりを進めます。

地 域	地域の将来像とまちづくりのテーマ	
①中心部地域	将来像	和歌山の中心となる活力と魅力あふれる城のまち
	テーマ	① 都市の中心の魅力を磨き人々が集うまちづくり ② 充実した交通の利便性を活かしたまちづくり ③ 高度な都市機能を活かしたまちなか居住の環境づくり
②北西部地域	将来像	友ヶ島を望む雄大な自然を活かした観光と交流のまち
	テーマ	① 豊かな自然と史跡を活かした観光のまちづくり ② 漁業振興と企業誘致による新しい産業のまちづくり ③ 海と山の魅力を活かした住まい環境づくり
③北部地域	将来像	新たな魅力形成に向けた活気にあふれるまち
	テーマ	① 学術研究機関や商業機能が集積する新都市づくり ② 交通の利便性を活かしたまちづくり ③ 水と緑が豊かな住宅地と多様な産業が調和するまちづくり
④北東部地域	将来像	和泉山脈と紀の川に囲まれた親しみある交流のまち
	テーマ	① 広域交通を活かした発展のまちづくり ② 郊外型住宅のゆとりある住まい環境づくり ③ 山と川と田園景観を望む地域づくり
⑤東部地域	将来像	紀の川に広がる田園と産業のまち
	テーマ	① 活気ある産業と田園が調和するまちづくり ② 熊野古道と風土が息づく歴史の地域づくり ③ 紀の川と山が織り成す景観を育むまちづくり
⑥南東部地域	将来像	緑豊かな農園が広がる安らぎとゆとりのまち
	テーマ	① 山並みと農園が調和する緑豊かなまちづくり ② 文化と農業のレクリエーションを活かした地域づくり ③ 交通ネットワークを活かした交流のまちづくり
⑦南部地域	将来像	歴史と新たな賑わいが共にいきづく海辺のまち
	テーマ	① 和歌浦湾の景観と歴史を活かした観光のまちづくり ② 港湾機能の充実と港を活かした交流の地域づくり ③ 海風の香る自然豊かな住まい環境づくり

2.地域別構想－①中心部地域



2. 地域別構想—①中心部地域

(1) 中心部地域の概要

1) まちの現況

- ・中心部地域は、紀の川の南側に位置しており、紀の川河口にひろがる沖積平野に形成された地域です。和歌山市発祥の地である和歌山城の城下町を中心に発展してきました。
- ・中心部地域は、商業・業務、行政サービス、教育文化など高度な都市機能が集積する中心市街地を含む、本町地区、城北地区などの15地区で構成します。
- ・JR線より西側は、徳川御三家の城下町を中心に放射状に街道がネットワークされ、商業流通拠点が形成されてきました。JR線より東側は、田園地帯でしたが、戦後に宅地化が進み、一部に集積した農地を残しながら市街地が形成されていきました。
- ・臨海部は、県北部産業を支える広域的な物流拠点である国際拠点港湾和歌山下津港の和歌山本港区があり、戦前から工業地帯が形成され、戦後の高度経済成長期にはさらに港湾整備が進み、本港区に面して大規模な化学工場等が立地しています。
- ・JR和歌山駅及び南海和歌山市駅が広域な交通結節点となり、周辺地域から第3次産業の従業者が多数通勤する中心拠点とそれを取り巻く住宅地、臨海部の工業地で形成されています。
- ・地域の南部の国道42号及び国体道路、東部の宮街道などの幹線道路沿いで商業集積があるとともに、臨海部と和歌川及び大門川沿いには工業地帯がひろがっています。

2) 地域の動向

- ・地域の面積は22.08km²であり、市全体の面積の約11%を占めています。ほぼ全域が市街化区域であり、公共・公益施設や都市機能の集積した中心市街地を中心に、幹線道路沿いでは商業地、臨海部と内陸の河川沿いは工業地が立地しています。
JR線より東側では田畑も分布しており、比較的まとまった規模の農地があります。
- ・平成27年の中心部地域の人口は105,375人、世帯数は48,285世帯となっています。古くから発展してきた地域であり、市内で最も人口が集積しています。
- ・人口は昭和後期から減少しており、平成7年時よりも約13%減少しています。特に中心市街地における人口減少と高齢化が進んでいますが、やや横ばいの傾向に戻りつつあり、近年まちなか居住が進んでいます。
- ・年齢別の人口比率は、15歳未満が11.0%、15～64歳が58.2%、65歳以上が30.8%となっています。本町地区、城北地区、広瀬地区、雄湊地区、大新地区をはじめとする中心市街地では、65歳以上が30%を越えています。

3) 地域の特色ある施設・資源

- ・中心部地域の主要な施設としては、和歌山県庁、和歌山市役所等の官公庁施設、県立近代美術館、県立博物館、県立図書館、市民図書館、市立博物館、こども科学館等の文化施設、県立体育館、和歌山東公園市民球場等の体育施設、中央コミュニティセンター等の市民サービス施設など、公益施設が数多く点在しています。その他に、日赤和歌山医療センター等の医療施設、県民文化会館、市民会館、ビッグホールなどの多目的ホールも立地しています。
- ・歴史的・文化的資源、景観資源としては、和歌山城を擁する和歌山公園があり、市民の憩いの場であるとともに、景観上も和歌山城は、本市の象徴となっています。
- ・臨海部の主要な施設としては、南海和歌山港駅、和歌山港フェリーターミナルなどの公益施設が立地しています。



(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

中心部地域は、高次な都市機能や交流機能が集積する地区を本市の中心拠点とし、また、日常生活機能が集積する国道42号沿道の高松バス停周辺及び宮前駅周辺を地域拠点として位置づけ、都市機能が充実したコンパクトなまちづくりをめざします。

中心部地域は、JR和歌山駅、南海和歌山市駅の交通ターミナルを拠点として、JR阪和線、JR紀勢本線、南海本線、JR和歌山線、南海加太線、南海和歌山港線、和歌山電鉄貴志川線や基幹バス路線により、和歌山市域だけでなく、大阪府、紀北部、紀南部など多方面と結ばれています。また、阪和自動車道、京奈和自動車道、第二阪和国道により、広域的に主要都市と結ばれ、国道42号、市駅和佐線、主要地方道和歌山阪南線などの幹線道路により、市内の他の地域と結ばれています。

JR阪和線、JR紀勢本線、南海本線や阪和自動車道、第二阪和国道を広域的に都市間を連携する広域連携軸、JR和歌山線、和歌山電鉄貴志川線、南海加太線、南海和歌山港線や国道42号、市駅和佐線、主要地方道和歌山阪南線などを都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

海上交通として、和歌山港においては、定期航路として徳島港を結ぶ南海フェリーが運航しています。

(3) 中心部地域の課題

- 中心市街地の拠点の活性化
- 高次の業務・産業・港湾機能の維持と先端産業の集積
- 既成市街地における用途地域の適正化
- 低未利用地の有効活用
- 人口減少と高齢化への対策
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 観光・レクリエーションの活性化に向けた施設整備（和歌山公園の再整備）
- 通過交通と市内交通の分離による円滑な道路交通網の整備
- 鉄道やバス路線等、公共交通体系の維持
- 南海フェリー航路の活用と維持
- 和歌山城周辺の景観保全
- 市街地再開発事業による市街地整備の推進
- 臨海部及び内陸部の工業の振興
- 工業地と住宅地の分離による快適な住環境の形成
- 公有地を活用した市街地整備
- 小中学校の再編

(4) 中心部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 中心部地域の将来像

和歌山の中心となる活力と魅力あふれる城のまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 都市の中心の魅力を磨き人々が集うまちづくり

中心市街地では、今後も商業・業務の中心地としてまちに賑わいをもたせるために、官民それぞれの役割分担によるソフト施策を含めた事業を行います。また、高次の業務・産業機能を維持・充実し、先端産業の集積を図り、県都として活力あるまちを維持します。

更に、民間による再開発や公共施設の再配置とともに、中心市街地における大学誘致を進めることで、まちなかの魅力向上と都心の再生を図ります。

臨海部と和歌川及び大門川沿いの工業地帯では、埋立地への企業誘致による工業の活性化とともに、内陸部では住宅地との共存も進めます。

和歌山下津港では、南海フェリーによる海の玄関口として、四国との連絡を維持していきます。

青岸にある和歌山市のごみ処理施設については、環境負荷の低減を図り、循環型社会に対応するために施設の整備を進めます。

和歌山城周辺では、景観の保全を図り、これらを活かした観光活性化を進めます。

市街化区域内の農地が残るエリアにおいては、秩序ある住宅地の形成を図り、周辺環境と調和した住まい環境づくりを進めます。



② 充実した交通の利便性を活かしたまちづくり

市の中心部への通過交通を排除するため、都市計画道路の整備を進め、交通混雑を解消し、都市としての利便性と活力を高めます。また、公共交通等による市内各地域とのネットワークを形成し、地域間の連携強化を図ります。

今後の高齢化社会への対応や環境負荷の低減に向け、鉄道やバス等の公共交通体系の維持・向上について検討を進め、自動車交通に頼らない暮らしの実現を誘導します。さらに、歩行者・自転車に優しいまちづくりに向けて快適な歩行者空間の形成を進めます。

③ 高度な都市機能を活かしたまちなか居住の環境づくり

中心市街地は、県都として業務サービス機能や和歌山大学「まちかどサテライト」等の学術研究機能などがあり、他都市から来街者が多く訪れる地区です。また都心部として高度利用が可能な地区でもあります。

このため、中心拠点における高度な都市機能の集積、土地の高度利用とあわせ、まちなか居住を推進することなどにより、定住人口の増加を促し、よりにぎわいのある中心市街地の形成をめざします。

その他に、中心市街地における歴史・文化資源の活用や、和歌山公園をはじめとする豊かな緑環境を活用し、まちなかで居住しやすい環境づくりを進めます。

安全・安心な住環境の形成に向けて、防火地域・準防火地域の規制誘導による都市の防災性の向上を図ります。

工業地と住宅地の間には緩衝帯の整備を進め、地域の緑化と良好な住環境の保全に努めます。

＜中心部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいと活気あるまちの形成 ・高度な都市機能の充実とこれらを活かした居住環境の形成 ・臨海工業地域の形成 ・住工分離による快適な住環境の形成
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・商業、業務、文化、行政機能等の集積によるまちなか居住の促進 ・都心活動を支える商業機能の向上 ・工業機能の向上に向けた基盤施設の整備 ・港湾拠点としての機能の整備 ・市街地再開発事業の推進（和歌山市駅前、北汀丁、友田町四丁目）
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備 今福神前線、有本中島線、松島本渡線、雄湊高松線 ・橋梁長寿命化計画に基づく修繕 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山公園の施設整備と史跡の活用（和歌山城） ・水辺空間の緑地整備 ・市街地内緑地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業 ・公共下水道（汚水）事業 ・下水道総合地震対策事業（マンホールトイレ設置事業等）
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と風格を感じる景観の保全 ・和歌山城周辺景観重点地区の景観形成 ・にぎわいや活力を感じさせるまちなかの景観形成 ・秩序ある沿道の景観形成 ・周辺環境と調和した工場の景観形成 ・川との関係に配慮した河川景観の形成 ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・周辺との調和を意識した住宅地の景観形成 ・沿川環境と調和を図ることによる紀の川の開放感を感じることでできる河川景観の保全





その他	<ul style="list-style-type: none">・ 大学誘致等による中心市街地の活性化・ 臨海部、内陸部の工業の振興・ 伝統的工芸品産業の振興（紀州箆笥）・ 広域避難所としての機能強化（和歌山公園、ビッグ愛、ビッグホエール）・ 観光案内機能の強化
-----	---

中心部地域整備方針図





凡 例

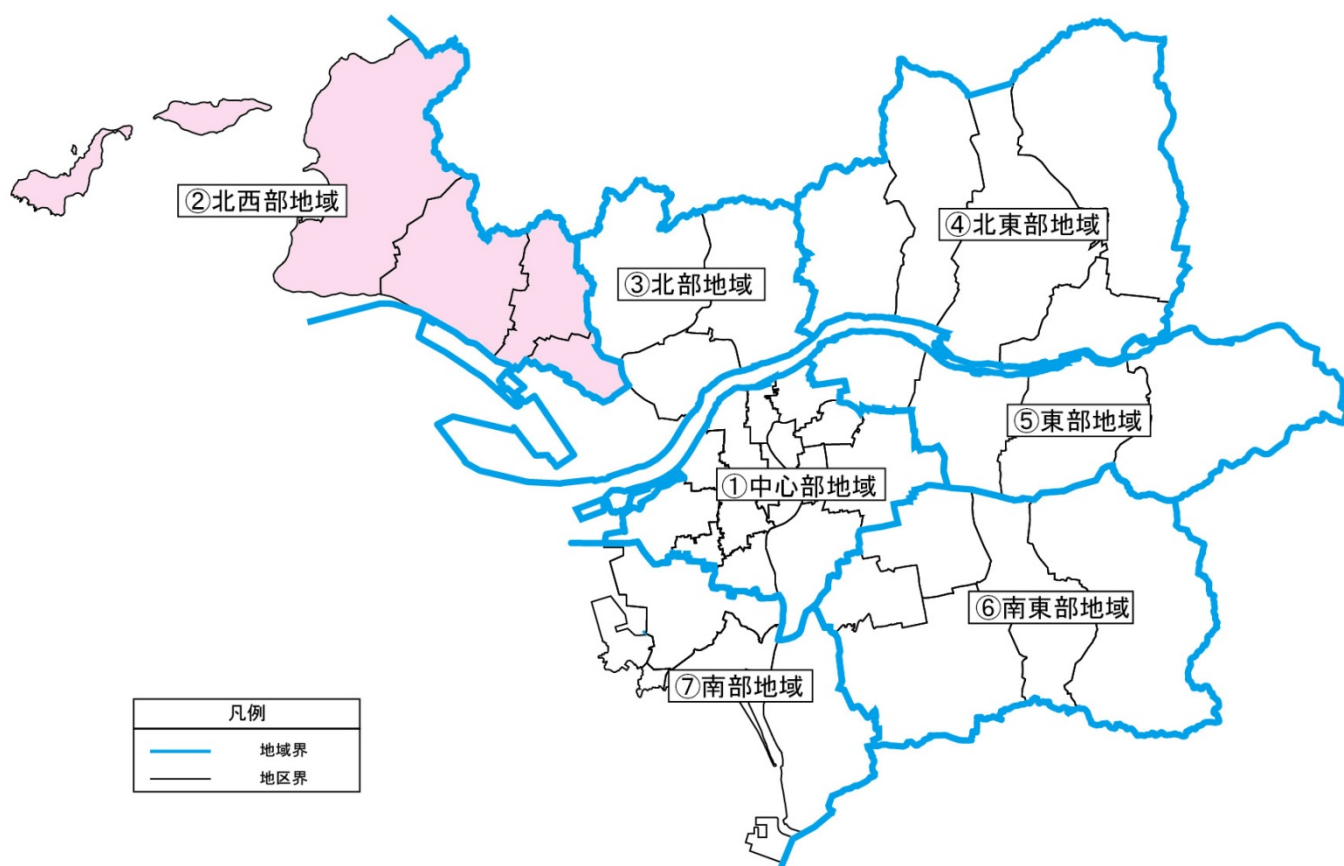
《拠点・ゾーン》

-  中心拠点
-  地域拠点
-  工業機能ゾーン
-  観光レクリエーション機能ゾーン

《左記以外のエリア》

-  主に工業機能の集積
-  主に住宅環境の整備・保全

3.地域別構想－②北西部地域



3. 地域別構想－②北西部地域

(1) 北西部地域の概要

1) まちの現況

- ・北西部地域は、西は紀淡海峡、北は大阪府に面しており、友ヶ島を含む加太地区と西脇地区、木本地区、松江地区の4地区で構成します。
- ・海や山などの自然豊かな観光資源を有するエリアであり、加太地区は淡嶋神社・加太春日神社・加太漁港を中心に集落が形成されており、西脇地区では西脇山口線や南海加太線沿いならびに木本地区の南側と松江地区に住宅地が形成されています。



2) 地域の動向

- ・地域の面積は 32.78km² であり、市全体の面積の約 16% を占めています。地域の北西部分の多くは市街化調整区域であり、山林と一部の地域では計画的な開発地があります。また、市街化区域内は主に住宅地として利用されているほか、畑も多く分布しています。
- ・平成 27 年の北西部地域の人口は 43,223 人、世帯数は 17,533 世帯となっています。市内では人口の少ない地域であり、北東部地域・南部地域と同程度となっており、人口密度も低い地域となっています。
- ・人口は平成 12 年までは横ばいでしたが、その後減少に転じています。平成 27 年では、平成 7 年時よりも約 11% 減少しています。
- ・年齢別の人口比率は、15 歳未満が 12.0%、15～64 歳が 57.7%、65 歳以上が 30.3% となっています。特に、加太地区では 65 歳以上が 44% を越えています。一方で、木本地区は 29.1% と低く、地区によって高齢化の傾向に差があります。

3) 地域の特色ある施設・資源

- ・公共施設として河西コミュニティセンターが立地しています。また、大規模な医療施設では、和歌山労災病院が立地しています。
- ・北西部地域には歴史的・文化的資源、景観資源が多く点在しています。歴史的・文化的資源としては、加太春日大社、淡嶋神社などがあります。加太地区は、万葉の時代から瀧見の浦と詠まれていた景勝地でもあり、紀淡海峡に面して美しい海岸線が続いています。また、豊かな漁場でもあり、漁業も盛んです。
- ・観光レクリエーション資源として、友ヶ島のほか、休暇村紀州加太、市立少年自然の家、温泉宿泊施設、森林公園、西庄ふれあいの郷、つつじが丘テニスコートなどの公園・レジャー施設があります。また、加太、磯の浦は海水浴場としても賑わっています。
- ・和歌山県により、関西空港埋立用土砂採取地の跡地がコスモパーク加太として整備され、企業用地や広域防災拠点として土地利用が進められています。



加太海水浴場

(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

北西部地域においては、加太駅周辺及び八幡前駅周辺における公共交通機関の維持・充実に図り、都市機能の維持・誘導を行います。

北西部地域は、南海加太線で中心部地域や北部地域と結ばれています。また、西脇山口線、主要地方道岬加太港線などの幹線道路により、市内の他の地域や大阪府と結ばれています。

南海加太線や西脇山口線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

また、海・山・島の豊かな自然と観光資源をはじめとする地域資源が存在する友ヶ島へは、観光のために連絡船が運航しています。

(3) 北西部地域の課題

- 周辺市街地のスプロールの開発の防止と計画的開発の誘導
- 加太の漁業振興による観光の活性化
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 観光・レクリエーションの活性化に向けた施設整備
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進
- コスモパーク加太、スカイタウンつつじが丘の有効活用による地域活性化
- 地域生活道路整備による居住環境の改善

(4) 北西部地域の将来像とまちづくりのテーマ**1) 北西部地域の将来像**

友ヶ島を望む雄大な自然を活かした観光と交流のまち

2) 地域別まちづくりのテーマ**① 豊かな自然と史跡を活かした観光のまちづくり**

既存の観光レクリエーション資源の活用や、史跡・景観の保全を行い、マリンレジャーや磯釣り、キャンプ等の様々な観光を楽しめる拠点づくりを進め、観光客の誘致を図ります。

戦前の要塞跡地が加太・深山と友ヶ島にあり、これらを観光資源としてアピールするとともに、友ヶ島を京阪神に最も近い観光島として再生を図ります。

② 漁業振興と企業誘致による新しい産業のまちづくり

豊かな漁場に近い加太港は、鮮魚の昼市で賑わっており、海産物を取り入れた特産品の開発や販売などを活かしながら、新たな観光振興を促します。

和泉山脈南丘陵部の企業用地「コスモパーク加太」では、新たな企業参入を促進し、複合都市機能の形成を進めます。

③ 海と山の魅力を活かした住まい環境づくり

緩やかな起伏や海への眺望などを活かしたゆとりある住環境の形成を図り、眺望の優れたスカイタウンつつじが丘の住宅地販売を促進するとともに、別荘や休養地としての土地利用を促します。

既成市街地では、生活道路の整備・改善を図り、良好な住環境を保全します。

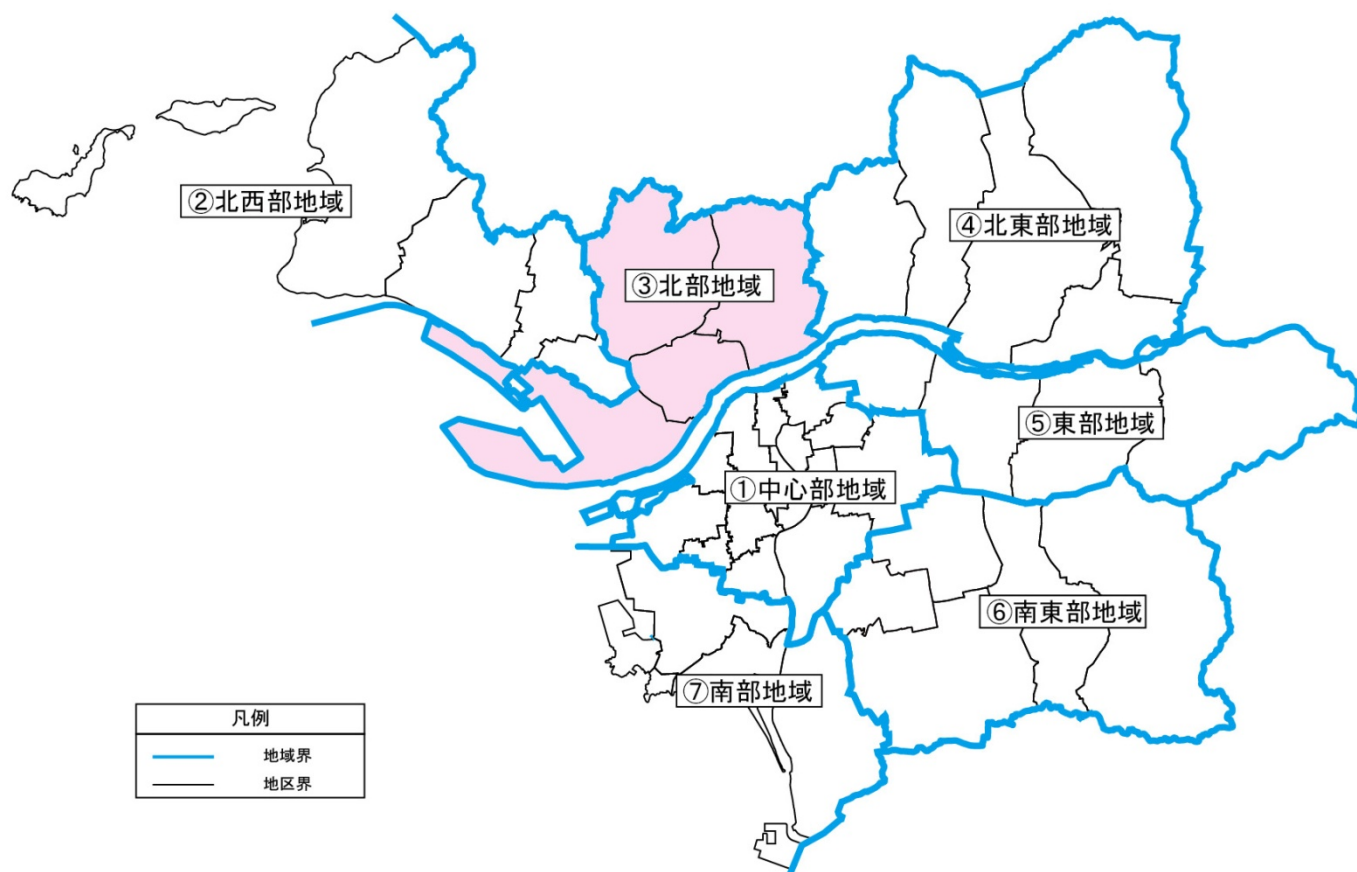
自然が残る海岸部では、磯、砂浜を利用した親水レクリエーションを楽しめる環境を保全します。

市街化区域内に残る、規模のまとまった農地では、秩序ある住宅地の形成や都市と緑・農との共生を図り、周辺環境と調和した住まい環境づくりを進めます。

＜北西部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸美を活かしたゆとりある住環境の形成 ・うるおいと豊かさを与える山林緑地の保全
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な観光を楽しめる拠点づくり ・新たな産業の拠点づくり
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道坂田磯の浦線の整備 ・紀淡連絡道路構想 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林公園の保全 ・緩衝緑地の保全 ・水辺空間の緑地整備 ・後背山地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業 ・公共下水道（污水）事業 ・下水道総合地震対策事業（マンホールトイレ設置事業等） <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置艇収容施設の整備
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・景勝美を持つ湾・海岸景観の保全・形成 ・緑豊かな和泉山脈の景観保全 ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・特徴的なまちなみを有する漁村景観の保全・継承
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・加太・友ヶ島の観光振興と既存施設の維持管理 ・漁業の振興と観光活用 ・企業誘致の推進（コスモパーク加太） ・スカイタウンつつじが丘の住宅地形成 ・西庄ふれあいの郷の活用促進 ・遊休農地活用の支援 ・急傾斜地崩壊・地すべり及び土石流の対策 ・津波対策の強化 ・建物更新困難地域における防災性向上の検討

4. 地域別構想－③北部地域



4. 地域別構想—③北部地域

(1) 北部地域の概要

1) まちの現況

- ・北部地域は、北は大阪府、南は紀の川に面しており、貴志地区、楠見地区、野崎地区、湊地区の4地区で構成します。紀の川の南側に位置する中心部地域が、旧城下町を基盤にした市街地である一方、北部地域は、市街地拡大に伴って発展してきた新興のエリアにあたります。大阪都市圏にも近いため、主に高度経済成長期に人口の増加を受け入れる郊外型の住宅地が形成されています。
- ・東西方向の西脇山口線、南北方向の主要地方道和歌山阪南線沿いに商業集積地があるとともに、その後背地に住宅地がひろがっています。
- ・湊地区の臨海部、和歌山北港区には大規模な製鉄所等が立地しています。
- ・和歌山大学北側の南海本線和歌山大学前駅周辺地区では、大規模集客施設を含めた住宅地開発が進んでいます。



藤戸台小学校

2) 地域の動向

- ・地域の面積は 22.84km² となっており、市全体の面積の約 11% を占めています。地域の平野部は主に市街化区域で、和泉丘陵や紀の川沿いの一部が市街化調整区域となっています。市街化区域の大部分は臨海部を除き住宅地であり、幹線道路沿道に商業地が形成されています。また、和泉丘陵では計画的な開発が進行しています。
- ・平成 27 年の北部地域の人口は 59,246 人、世帯数は 24,934 世帯となっています。
- ・市内では、中心部地域に次いで人口が多い地域であり、和歌山市において新たな人口の受け皿として発展した地域となっています。
- ・人口は平成 7 年以降減少傾向に転じていましたが、平成 27 年では平成 7 年時とほぼ同水準まで回復しています。
- ・年齢別の人口比率は、15 歳未満が 14.3%、15～64 歳が 60.6%、65 歳以上が 25.1% となっています。貴志地区では 65 歳以上が 18% 程度と割合が低いものの、湊地区のように 65 歳以上が 30% を越えている地域があるなど、地区によって高齢化の傾向に差がありますが、全体的には若年層が多い地域となっています。

3) 地域の特徴ある施設・資源

- ・北部地域の主要な施設としては、和歌山大学が立地しているほか、公共施設として河北コミュニティセンター、市民体育館、市民温水プール、河西ほほえみセンターが立地しています。大学北側の和歌山大学前駅の設置によって、地域北側の交通利便性の向上が図られています。
- ・北港の岸壁には全長 1km の和歌山北港魚釣り公園があります。



和歌山大学駅前周辺

(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

北部地域においては、公共施設や商業施設等が集積する和歌山大学前駅周辺、紀ノ川駅周辺及び延時バス停周辺における公共交通機関の維持・充実を図り、都市機能の維持・誘導を行います。

北部地域は、南海本線で中心部地域や大阪方面と、南海加太線で北西部地域と結ばれています。また、地域高規格道路である第二阪和国道や西脇山口線、主要地方道と歌山阪南線などの幹線道路で大阪府、中心部地域、市内の他の地域と結ばれています。

南海本線や第二阪和国道を広域的に都市間を連携する広域連携軸、南海加太線や西脇山口線、主要地方道と歌山阪南線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

(3) 北部地域の課題

- 既成市街地における用途地域の適正化
- 周辺市街地のスプロールの開発の防止と計画的開発の誘導
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 港湾機能の保全
- 工業地と住宅地の分離による快適な住環境の形成
- 幹線道路の整備による広域自動車交通網の形成
- 和歌山大学を活かした産官学の連携
- 第二阪和国道による広域連携の促進

(4) 北部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 北部地域の将来像

新たな魅力形成に向けた活気にあふれるまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 学術研究機関や商業機能が集積する新都市づくり

和歌山大学北側の計画開発区域では、南海本線の和歌山大学前駅が開設され、第二阪和国道、主要地方道と歌山阪南線と合わせ、大阪府等と連結する広域交通が整備されています。

和歌山市の北端に位置する本地域は、大阪府への玄関口であり、既存の大型商業施設や周辺の住宅地開発により、大阪方面からの人口流入を視野に入れた、多機能型都市の形成をめざします。また、近隣の工業地や住宅地、和歌山大学と連携した研究学園都市づくりを進めます。

② 交通の利便性を活かしたまちづくり

第二阪和国道や南海本線の有効活用により、周辺都市や中心部との連携強化を図ります。

また、地域連携軸の西脇山口線とともに、紀の川大橋、北島橋、紀の国大橋の3本の橋で中心市街地に連結していることを活かし、住環境の整備、都市機能の充実を図ります。

快適な歩行者空間の形成や公共交通、自転車利用の促進を行い、自動車交通に頼らないまちづくりを進めます。

③ 水と緑が豊かな住宅地と多様な産業が調和するまちづくり

新しい開発地などでは、良好な景観形成への誘導を行いながら、紀の川と緑に囲まれた郊外型のゆとりある住環境を形成します。既成市街地では居住環境や防災性を高めることで、安全・安心な住環境を形成します。また、工業地と住宅地の間にある緩衝緑地を保全し、良好な住環境の形成を図ります。

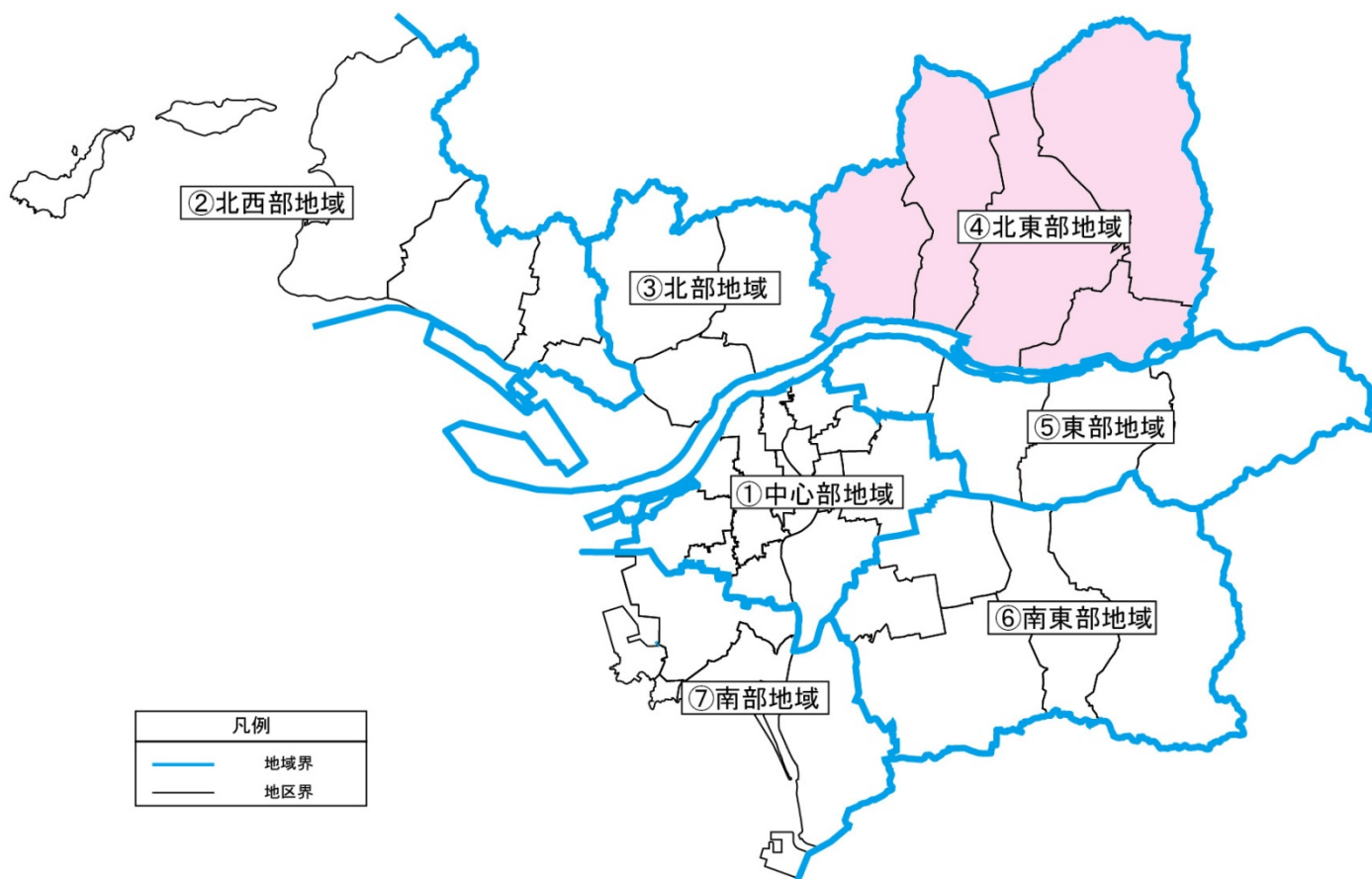
市街化区域内の農地が残るエリアにおいては、周辺環境と調和した住まい環境づくりを進めます。

商業施設の集積が進む幹線道路沿道では、景観や生活環境への配慮等、適切な開発指導を行い、地域住民の日常生活の利便性に資する沿道利用地を形成します。

＜北部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かでうるおいのある安心・安全で快適な住宅地の形成 ・計画的な開発の指導と山林の保全 ・臨海工業地域の形成 ・住工分離による快適な住環境の形成
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・工業機能の向上に向けた基盤施設の整備
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備 北島湊線 ・（仮称）京奈和・第二阪和連絡道路の事業化の促進 ・紀淡連絡道路構想の推進 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀の川の水辺空間の緑地整備 ・緩衝緑地の保全 ・後背山地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業（貴志、野崎、楠見地区） ・公共下水道（汚水）事業（貴志、野崎、湊地区） ・下水道総合地震対策事業（マンホールトイレ設置事業等）
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・緑豊かな和泉山脈の景観保全 ・沿川環境と調和を図ることによる、紀の川の開放感を感じることでできる河川景観の保全 ・周辺環境と調和した工場の景観形成 ・秩序ある沿道の景観形成
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山大学を活かした産学官の連携による多様な産業の振興 ・臨海部と内陸部の工業振興 ・遊休農地活用の支援 ・急傾斜地崩壊・地すべり及び土石流の対策

5. 地域別構想－④北東部地域



5. 地域別構想—④北東部地域

(1) 地域の概要

1) まちの現況

- ・北東部地域は、北は大阪府、東は岩出市、南は紀の川に囲まれた位置にあり、有功地区、直川地区、川永地区、紀伊地区、山口地区の5地区で構成します。
- ・北側の和泉山脈と南側の紀の川の間にある平野部において、田園や集落が形成されてきました。JR阪和線六十谷駅周辺及び紀伊駅周辺では、主要地方道粉河加太線沿いに学校や病院等、生活に密着した施設が立地しています。
- ・和歌山北インター西側の直川地区では、産業・物流拠点としての整備が進んでいます。



2) 地域の動向

- ・地域の面積は46.88km²となっており、市全体の面積の約22%を占めています。大部分が市街化調整区域となっており、山林や田、果樹園の広がる地域となっています。また、市街化調整区域内の幹線道路沿道は、開発基準により一定の開発行為が認められており、岩出市の市街地に近いこともあり、商業施設等が集積しています。
- ・平成27年の北東部地域の人口は39,274人、世帯数は15,677世帯となっています。市内では人口の少ない地域であり、東部地域や北西部地域とほぼ同程度となっています。他地域と比較して、人口の変動はあまりない地域です。
- ・年齢別の人口比率は、15歳未満が12.6%、15～64歳が56.7%、65歳以上が30.8%となっています。特に、紀伊地区では65歳以上が33%となっています。市全体よりやや高齢化率が高い地域となっています。

3) 地域の特色ある施設・資源

- ・歴史的・文化的な景観資源として、地域を縦断する熊野古道や王子跡などの史跡が点在しています。

(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

北東部地域においては、六十谷駅周辺及び紀伊駅周辺における公共交通機関の維持・充実を図り、都市機能の維持・誘導を行います。

北東部地域は、JR 阪和線で中心部地域や大阪方面と結ばれています。また、高規格幹線道路である阪和自動車道、京奈和自動車道や国道 24 号、西脇山口線などの幹線道路で大阪府、紀北部、中心部地域、市内の他の地域と結ばれています。

JR 阪和線や阪和自動車道、京奈和自動車道を広域的に都市間を連携する広域連携軸、国道 24 号、西脇山口線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

(3) 北東部地域の課題

- 周辺市街地のスプロールの防止と計画的開発の誘導
- 優良農地の保全、営農の確保等による既存農地の維持
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 和歌山北インターチェンジ周辺等における自然環境や景観に配慮した計画的な開発の誘導
- 幹線道路の整備による広域自動車交通網の形成
- 国道 24 号沿道における適正な開発の指導
- 地域生活道路整備による居住環境の改善
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進

(4) 北東部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 北東部地域の将来像

和泉山脈と紀の川に囲まれた親しみある交流のまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 広域交通を活かした発展のまちづくり

岩出市方面からの鉄道利用も期待される JR 紀伊駅周辺では、北東部地域の中核として、駅周辺の環境整備を図り、地域の発展につなげるとともに、地域拠点としての機能向上を行います。

阪和自動車道と和歌山北インターチェンジ周辺では、主に物流、事業所の産業系や地域特性に応じた商業系の開発を適正にコントロールし、周辺環境に配慮しつつ、産業地の形成と秩序あるまちづくりを進めます。

国道 24 号等の幹線道路沿道の開発については、周辺の農業環境に配慮しつつ、広域道路として適正な土地利用の誘導を図ります。

身近な交通手段であるバスの利便性向上など、公共交通機関の充実を図り、JR 紀伊駅周辺と農村集落地との交通ネットワークを形成・維持します。

② 郊外型住宅のゆとりある住まい環境づくり

市街化区域内においては、秩序ある住宅地の形成を図り、周辺環境と調和した住まい環境づくりを進めます。また、市街化調整区域において、複数の公共公益施設が存する区域である集落拠点では、緩やかな誘導と生活環境の維持を図ります。

直川地区では、コミュニティセンター、サービスセンター、保健センター機能を持つ直川複合施設「さんさんセンター紀の川」を中核として、保育所や公園などとともに、地域内外の交流・連携、福祉の向上に寄与できる地域づくりを進めます。

③ 山と川と田園景観を望む地域づくり

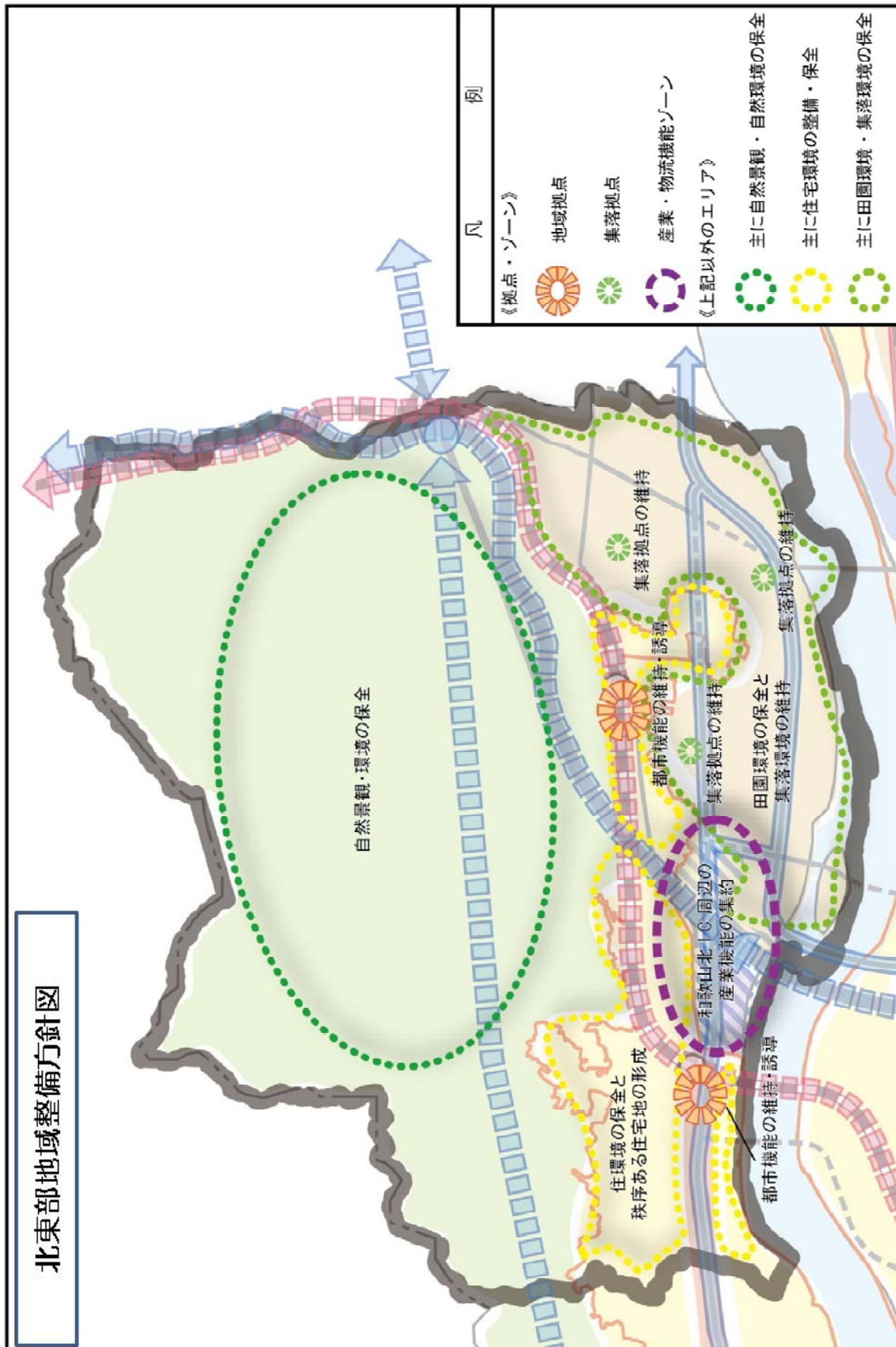
市街地の背景ともなる和泉山脈の山林緑地、紀の川右岸の優良農地や農村集落の保全を図り、田園景観に囲まれた農村的空間の魅力を維持していきます。また、紀の川のシンボリックな景観や山口地区の熊野古道周辺など、地域の特徴的な景観を保全します。



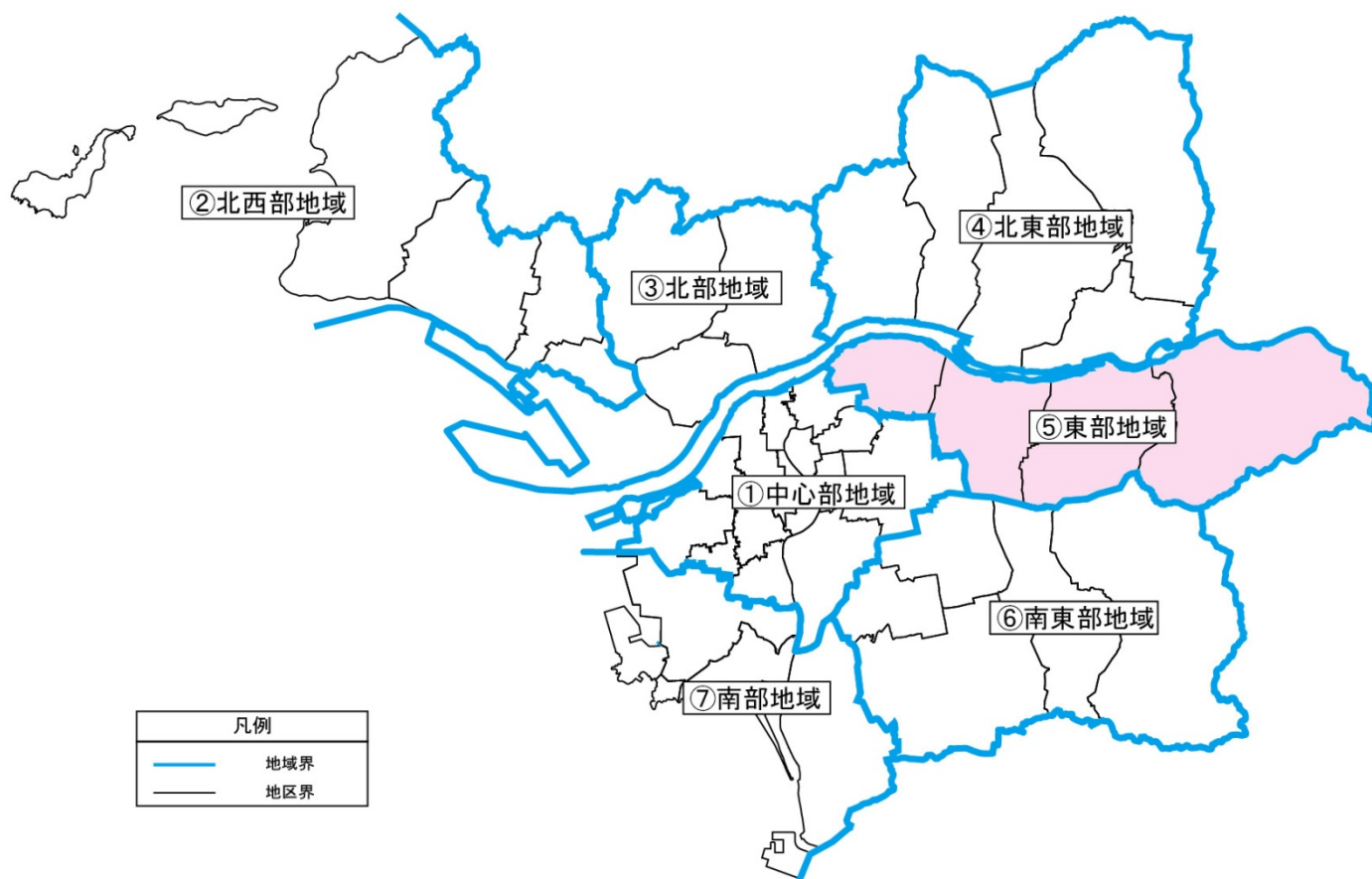
田園景観に囲まれた農村的空間

＜北東部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉山脈の自然環境の保全 ・田園環境の保全と適切な開発の指導 ・豊かな自然環境と共生する住環境の形成 ・交通条件を活かした新たな産業・物流等の拠点づくり
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・営農環境に配慮した適正な開発誘導 ・ゆとりある住宅地の整備
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備 嘉家作府中線 ・（仮称）京奈和・第二阪和連絡道路の事業化の促進 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀の川の水辺空間の緑地整備 ・後背山地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業（有功地区） <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川改修の推進
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな和泉山脈の景観保全 ・沿川環境と調和を図ることによる紀の川の開放感を感じることのできる河川景観の保全・形成 ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・広がりのある田園景観の保全 ・緑と歴史が息づくやすらぎを感じることのできる景観保全 ・秩序ある沿道の景観形成 ・古くからの特徴的なまちなみ景観の保全
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・直川複合施設「さんさんセンター紀の川」の活用 ・遊休農地活用の支援 ・急傾斜地崩壊・地すべり及び土石流の対策



6.地域別構想－⑤東部地域



6. 地域別構想—⑤東部地域

(1) 東部地域の概要

1) まちの現況

- ・東部地域は、西和佐・和佐・小倉・四箇郷地区の4地区で構成します。紀の川南側に位置し、東西に長く、地形は比較的平坦で水田が広がっており、JR和歌山線と市駅和佐線が横断しています。古来より大和街道や熊野古道が交差し、紀の川の渡しがあるなど、交通の要衝となっていました。
- ・和歌山東部山地には多くの文化財が残っており、熊野古道沿いを中心に寺社や祠、王子跡があるとともに、5世紀から7世紀前半にかけて築造された古墳群があります。
- ・紀の川沿いでは産業が発展し、工業団地が形成されています。産業支援のための中核的試験研究機関として和歌山県立工業技術センターもあり、和歌山県内における産業の拠点となっています。



和歌山県立工業技術センター

- ・紀の川南側の堤防沿いには工場地及び住宅地等の市街地が広がり、南側には田園、山地が広がっています。

2) 地域の動向

- ・地域の面積は28.56km²となっており、市全体の面積の約14%を占めています。地域の大部分は市街化調整区域となっており、主に山林や田が広がる地域です。また市街化調整区域の幹線道路沿道は、事務所・倉庫・研究所等が立地します。市街化区域内は、主に工業地や住宅地が形成されています。
- ・平成27年の東部地域の人口は36,941人、世帯数は14,435世帯となっています。市内では人口の少ない地域であり、北東部地域や南東部地域と同程度となっています。
- ・人口は近年継続して緩やかな増加傾向であり、平成7年時よりも約3%増加しています。特に、西和佐地区で人口が増加しています。
- ・年齢別の人口比率は、15歳未満が13.3%、15～64歳が59.4%、65歳以上が27.4%となっています。市内では、北部地域とともに高齢化率が低い地域となっています。

3) 地域の特色ある施設・資源

- ・歴史的・文化的資源として、紀伊風土記の丘や重要文化財である旧中筋家住宅があり、その他にも古墳等様々な歴史的資源が残されています。熊野古道沿いには王子跡、大和街道沿いの集落では旧街道をしのぼせる景観も残されています。

- ・公共施設としては、河南コミュニティセンター、河南総合体育館があります。
- ・農業や産業関連施設として、栗栖にJA和歌山本店、小倉に和歌山県立工業技術センター、和歌山県立産業技術専門学院が立地しています。

(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

東部地域においては、布施屋駅周辺における公共交通機関の維持・充実を図り、都市機能の維持・誘導を行います。

東部地域は、JR和歌山線で中心部地域や奈良方面と結ばれています。また、高規格幹線道路である阪和自動車道や国道24号、市駅和佐線、主要地方道と歌山打田線、主要地方道岩出海南線などの幹線道路で大阪府、紀北部、中心部地域、他の地域と結ばれています。

阪和自動車道を広域的に都市間を連携する広域連携軸、JR和歌山線、国道24号、市駅和佐線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

(3) 東部地域の課題

- 周辺市街地のスプロールの開発の防止と計画的開発の誘導
- 優良農地の保全、営農の確保等による既存農地の維持
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 新規の開発地区における自然環境や景観に配慮した計画的な開発の誘導
- 幹線道路の整備と和歌山インターチェンジの活用
- 工業地域の機能の充実
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進

(4) 東部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 東部地域の将来像

紀の川に広がる田園と産業のまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 活気ある産業と田園が調和するまちづくり

紀の川堤防沿いに発展した和佐から小倉地区にかけた工業地域では、コンクリート産業、流通産業、食品加工業、木工業等の既存産業の活性化を促し、和歌山東部地区の工業地域の形成を進めるため、住宅地化の抑制を検討します。

和歌山インターチェンジ周辺では、幹線道路となる市駅和佐線が和歌山インターチェンジまで開通したことにより、周辺地域や広域との交通ネットワークの向上を活かした新たな産業の拠点として主に物流・事業所の産業系や地域特性に応じた商業系の開発を適正にコントロールし、周辺田園環境との調和、住宅地の生活環境への配慮を行います。

また、市街化調整区域において、複数の公共公益施設が存する区域である集落拠点では、緩やかな誘導と生活環境の維持を図ります。

② 熊野古道と風土が息づく歴史の地域づくり

和歌山東部山地に数多く点在する文化財や古墳、紀伊風土記の丘等を活用し、地域全体の魅力を高めていきます。住民とともに地域資源の掘り起こしを進め、新たな魅力のある地域づくりを行います。



紀伊風土記の丘

熊野古道や国指定重要文化財である旧中筋家住宅周辺においては、地域の集落景観を保全し、歴史的な地域づくり努めます。



旧中筋家住宅

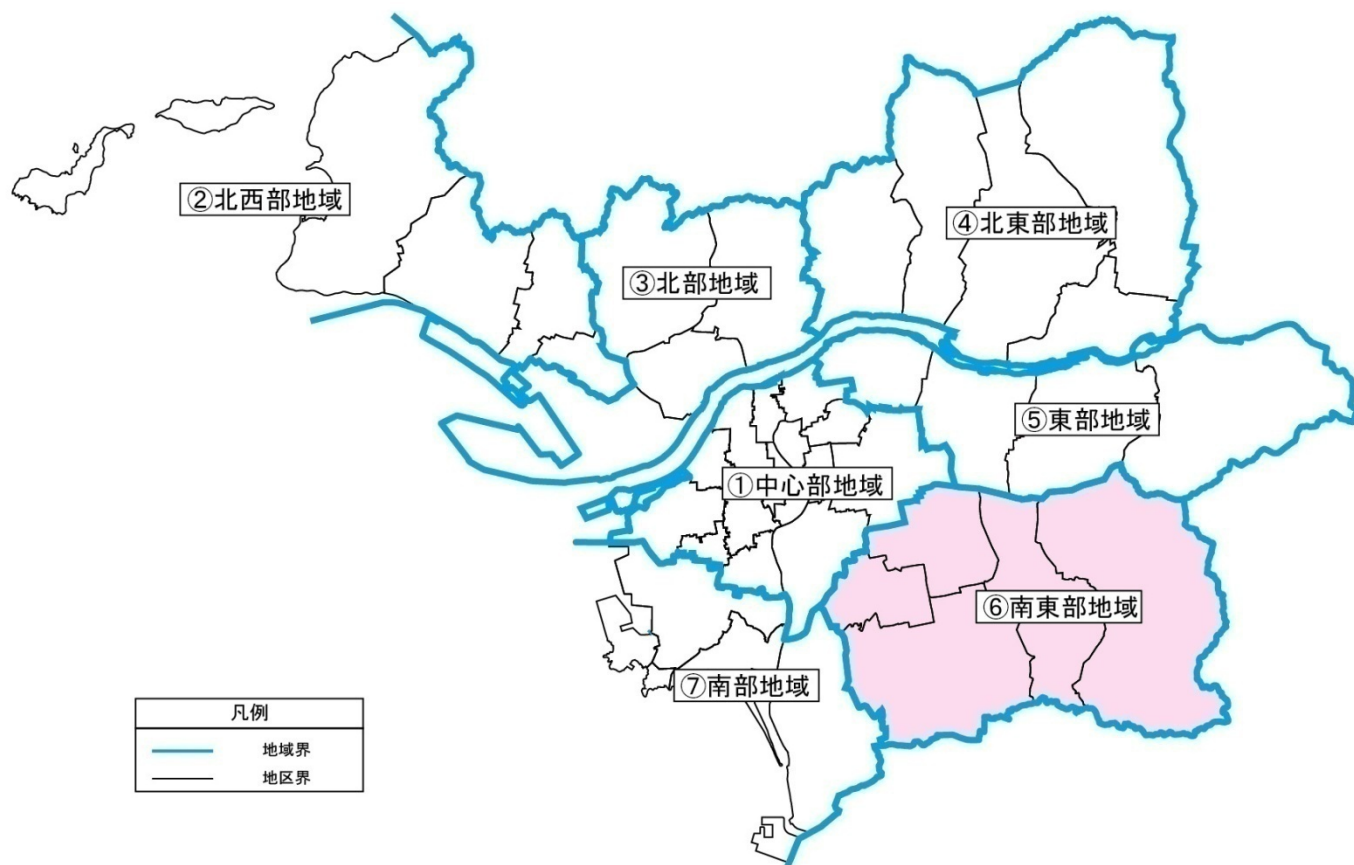
③ 紀の川と山が織り成す景観を育むまちづくり

紀の川と東部山地により形成される本地域では、のどかな田園環境と調和するゆとりある住まいづくりを進めます。幹線道路沿いにおいては、適正な開発の指導を進め、自然景観との調和を図ります。

＜東部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ うるおいと豊かさを与える農地の保全と有効活用の促進 ・ 田園と調和した住宅と産業の形成
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業機能の向上に向けた基盤施設の整備 ・ 流通業務機能などを活かした新たな産業等の拠点づくり
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画道路の整備 嘉家作府中線、市駅和佐線、和佐山口線 ・ 鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共下水道（汚水）事業（四箇郷地区） <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紀の川の水辺空間の緑地整備 ・ 後背山地の保全
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿川環境と調和を図ることによる紀の川の開放感を感じることのできる河川景観の保全・形成 ・ 広がりのある田園景観の保全 ・ 周辺環境と調和した工場の景観形成 ・ 緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・ 緑豊かな丘陵景観の保全 ・ 緑と歴史が息づくやすらぎを感じることのできる景観保全 ・ 秩序ある沿道の景観形成
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀伊風土記の丘の活用 ・ 旧中筋家住宅の公開活用 ・ 内陸部工業の振興と住宅地化抑制の検討 ・ 遊休農地活用の支援 ・ 急傾斜地崩壊・地すべり及び土石流の対策

7.地域別構想－⑥南東部地域



7. 地域別構想—⑥南東部地域

(1) 南東部地域の概要

1) まちの現況

- ・南東部地域は、三田・岡崎・安原・西山東・東山東地区の5地区で構成します。主に田園と農村集落で形成されており、大きく阪和自動車道を挟んで和田川沿いは田園であり、山地部は果樹園となっています。
- ・地域の大部分が山地と農地となっていますが、市街地に隣接した産業用地や鉄道駅周辺に、住宅地など市街地が形成されています。
- ・古来より熊野古道が通り、現在では、主要地方道和歌山橋本線・岩出海南線と県道秋月海南線や、和歌山電鐵貴志川線等、広域から地域に密着したレベルまで、多様な交通ネットワークを持つ地域となっています。



2) 地域の動向

- ・地域の面積は 39.85km² となっており、市全体の面積の約 19%を占めています。西山東地区の一部は市街化区域の飛び地であり、その周辺は市街化調整区域となっています。阪和自動車道以東の西山東・東山東地区は、主に山林や樹園地であり、三田地区・岡崎地区・安原地区は、主に田が広がっています。阪和自動車道以西の三田地区では比較的まとまった工業地があります。
- ・平成 27 年の南東部地域の人口は 33,478 人、世帯数は 12,546 世帯となっています。市内では東部地域とほぼ同程度の人口となっています。
- ・人口は近年継続してゆるやかな減少傾向でしたが、平成 27 年では平成 7 年時とほぼ同水準まで回復しています。
- ・年齢別の人口比率は、15 歳未満が 13.2%、15～64 歳が 58.1%、65 歳以上が 28.7% となっています。市街地に近接した岡崎地区、三田地区など 65 歳以上が約 27%の地区もあれば、山間部の西山東地区では 65 歳以上が約 36%であり、地区により高齢化の傾向に差があります。

3) 地域の特色ある施設・資源

- ・ 地域を通る熊野古道沿いに、木の国神話の社として知られる伊太祁曾神社があり、近隣に四季の郷公園が立地しています。また、三田地区には陵墓のある竈山神社があります。
- ・ 公共施設として、東部コミュニティセンター、交通センター、交通公園が立地しています。
- ・ 地域を横断する和歌山電鐵貴志川線は、地域の生活を支える公共交通機関であるだけでなく、ユニークな取り組みを企画し、地域の魅力を伝えるまちづくり活動を積極的に進めている路線です。



(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

南東部地域においては、住宅団地や公益施設、商業施設が集積する吉礼駅周辺における公共交通機関の維持・充実を図り、都市機能の維持・誘導を行います。

南東部地域は、和歌山電鐵貴志川線で中心部地域や紀の川市と結ばれています。また、高規格幹線道路である阪和自動車道や南港山東線、松島本渡線、主要地方道と歌山橋本線、主要地方道岩出海南線などの幹線道路で中心部地域、他の地域と結ばれています。

阪和自動車道を広域的に都市間を連携する広域連携軸、和歌山電鐵貴志川線、南港山東線、松島本渡線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

(3) 南東部地域の課題

- 周辺市街地のスプロールの開発の防止と、計画的開発の誘導
- 優良農地の保全、営農の確保等による既存農地の維持
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 広域交通網の整備に伴う和歌山南スマートインターチェンジ周辺等における自然環境や景観に配慮した計画的な開発の誘導
- 幹線道路の整備による広域自動車交通網の形成
- 観光レクリエーション機能等の充実
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進
- 和歌山電鐵貴志川線を活用したまちづくり

(4) 南東部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 南東部地域の将来像

緑豊かな農園が広がる安らぎとゆとりのまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 山並みと農園が調和する緑豊かなまちづくり

南東部地域の大部分は、山地や農地となっています。今後も都市近郊の農業環境が持続できるよう、無秩序な開発を抑制するとともに、河川改修や山林緑地の保全による防災機能の向上とあわせ、地域の環境を保全します。

また、集落地が分散して立地していることから、市街化調整区域において、複数の公共公益施設が存する区域である集落拠点では、緩やかな誘導と生活環境の維持を図るとともに、今後のさらなる高齢化を見据え、地域における日常生活サービス機能の充実と、公共交通アクセス性の向上を図ります。

老朽化の進む市営住宅では、建て替えを契機にして、地域の再生につながるまちづくりを行います。

② 文化と農業のレクリエーションを活かした地域づくり

田園や果樹園、神社・寺院、公園、公共交通機関など、様々な地域資源を保全・活用し、自然と農業のテーマパークである四季の郷公園を拠点として、農村型のレクリエーション活動の普及を進めます。

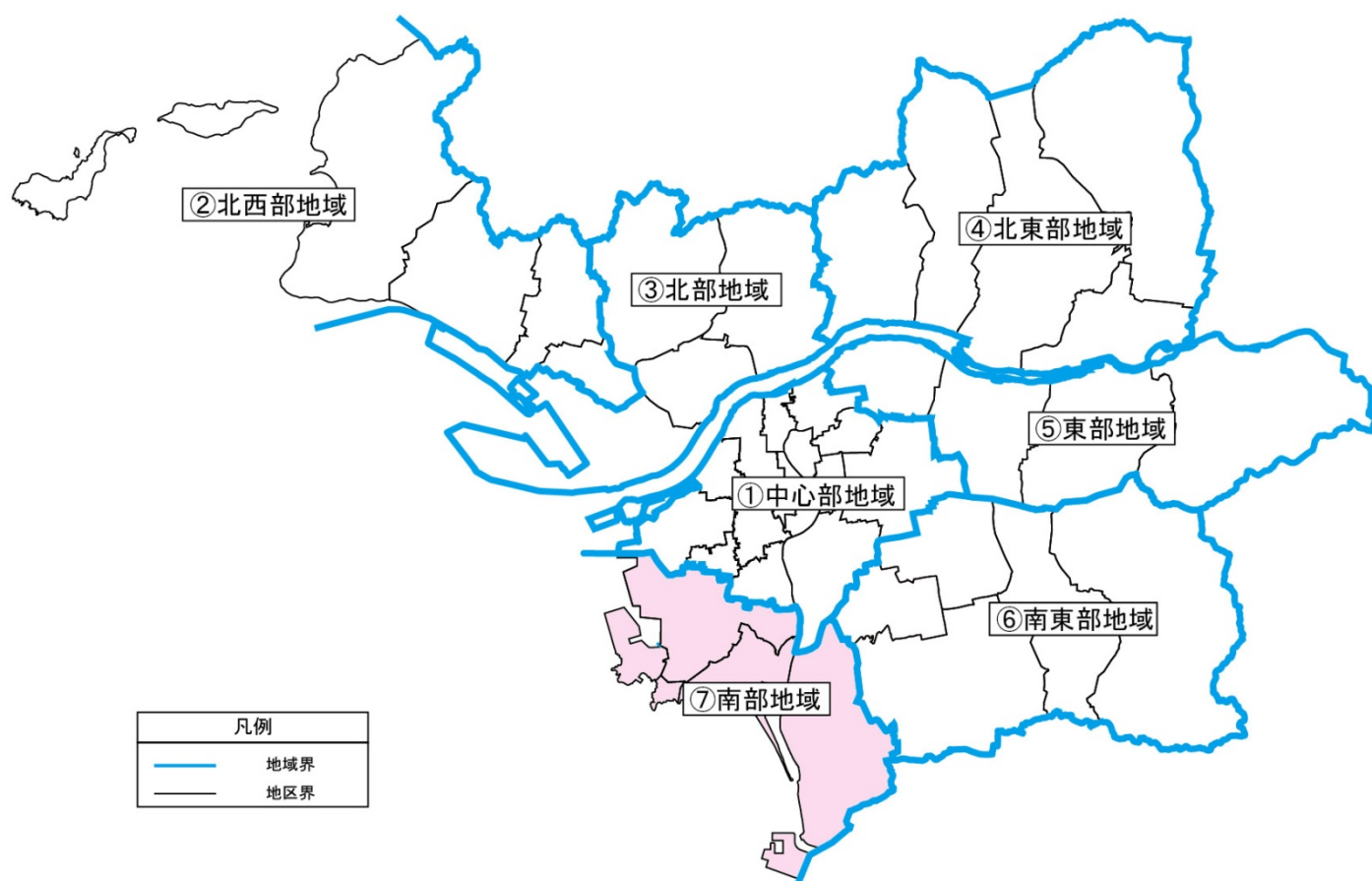
③ 交通ネットワークを活かした交流のまちづくり

南東部地域では、松島本渡線の整備を進めています。また、阪和自動車道と和歌山南スマートインターチェンジ、南港山東線の整備が完了し、新たな交通ネットワークが形成されたことによる広域的な利便性を活かした交流のまちづくりを図るとともに、新たな産業の拠点づくりに向けて、主に物流・事業所の産業系や地域特性に応じた商業系の開発を適切にコントロールし、周辺環境に配慮しつつ、産業地の形成と秩序あるまちづくりを進めます。

＜南東部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・山林の保全と豊かな農地の有効活用の促進 ・田園環境と調和したゆとりある住環境の形成 ・交通条件を活かした新たな産業・物流等の拠点づくり
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外型の住宅地の形成
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備 松島本渡線 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺空間の緑地整備 ・後背山地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業（三田・岡崎地区） <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川改修の推進 ・市営住宅岡崎団地の建替計画の推進 ・緊急消防援助隊活動拠点施設の整備
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・緑と歴史が息づく、やすらぎを感じることのできる景観保全 ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・緑豊かな丘陵景観の保全 ・広がりのある田園景観の保全 ・古くからの特徴的なまちなみ景観の保全
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の郷公園の農業体験型観光レクリエーション施設の活用 ・和歌山電鐵貴志川線を活用したまちづくり ・内陸部工業の振興 ・遊休農地活用の支援 ・急傾斜地崩壊、地すべり、土石流対策

8.地域別構想－⑦南部地域



8. 地域別構想—⑦南部地域

(1) 南部地域の概要

1) まちの現況

- ・南部地域は、雑賀・雑賀崎・田野・和歌浦・名草地区の5地区で構成します。
- ・雑賀崎地区は、臨海部に木材専用の工業地帯として発展してきた和歌山南港が位置し、周辺に大規模な工場が立地しています。また、雑賀崎・和歌浦・片男波など、風光明媚で変化に富んだ海岸地形を有しており、このような地形の景観的特徴を生かした宿泊施設や、紀三井寺をはじめ、紀州東照宮・和歌浦天満宮・玉津島神社・塩竈神社等の歴史的施設が数多くあります。また、地域南端に位置する和歌山マリーナシティには、様々なレジャー施設が立地しています。
- ・万葉の時代から宮廷人の歌の題材にされた和歌浦の景観は、今日へと語り継がれています。雑賀崎・田野・和歌浦には、それぞれ地形を生かした港があり、港を臨む斜面地には、独特の漁村集落があります。
- ・地域の多くが住宅地などの市街地であり、幹線道路沿道や和歌山マリーナシティには、商業地が分布しています。また、紀三井寺の後背には名草山があり、景観上の特徴となっています。



2) 地域の動向

- ・地域の面積は 17.31km² となっており、市全体の面積の約 8% を占めています。地域の大部分は、市街化区域となっています。主に住宅地としての利用が大部分ですが、その他に公的施設用地や工場地、公園緑地など、多様な土地利用があります。近年、幹線道路沿道では、商業地の形成が進んでいます。雑賀崎や名草山等の起伏に富んだエリアは市街化調整区域になっています。
- ・平成 27 年の南部地域の人口は 46,617 人、世帯数は 19,679 世帯となっています。市内では、北西部地域とほぼ同程度の人口となっています。また、市内では中心部・北西部に次いで継続して人口が減少しています。平成 7 年時から約 13% 減少しています。
- ・年齢別の人口比率は、15 歳未満が 11.4%、15～64 歳が 57.9%、65 歳以上が 30.7%

となっています。特に、雑賀崎地区では 65 歳以上が 45.2%、田野地区では 59.4% と、市内でも高齢化の傾向が高い地域となっています。

3) 地域の特徴ある施設・資源

- ・歴史的・文化的資源、景観資源としては、和歌山南港の入江に面して国指定名勝「養翠園」があり、市指定文化財（建造物）である湊御殿が園内に移築、公開されています。また、紀三井寺をはじめ、紀州東照宮、和歌浦天満宮、玉津島神社、塩竈神社、海禅院、番所庭園があります。また、三断橋、不老橋などの江戸期の建造物も残されています。



- ・市内を一望できる高津子山の展望台や、海のレジャーを楽しめる親子釣りパーク、浪早ビーチ、新和歌浦、片男波海水浴場、浜の宮ビーチがあります。
- ・文化的な施設として、万葉館や和歌の浦アート・キューブが立地しています。
- ・和歌山マリーナシティでは、テーマパークを中心に、レジャー施設や宿泊施設が立地し、多様なレクリエーション活動を楽しむことができ、広域からの集客力に富んでいます。
- ・公益的施設として、地域の北側の臨海部に中央卸売市場が立地し、地域の中央に県立和歌山医科大学が立地しています。また、公共施設として、県民水泳場、紀三井寺公園、和歌山地域地場産業振興センター等が立地しています。



(2) 地域の拠点と地域間のネットワーク

南部地域においては、地域のシンボルである紀三井寺が立地し、商業施設や医療施設が集積する紀三井寺駅周辺における公共交通機関の維持・充実を図り、都市機能の維持・誘導を行います。

南部地域は、JR紀勢本線で中心部地域や海南方面と結ばれています。また、国道42号や南港山東線などの幹線道路で紀南部、中心部地域、市内の他の地域と結ばれています。

JR紀勢本線を広域的に都市間を連携する広域連携軸、国道42号、南港山東線を都市機能の連携を促進させる地域連携軸として位置づけます。

(3) 南部地域の課題

- 周辺市街地のスプロールの開発の防止と、計画的開発の誘導
- 優良農地の保全、営農の確保等による既存農地の維持
- 漁業と一体となった市場形成による観光振興
- 山林の保全、無秩序な山林開発の抑制
- 市街化区域内農地の保全と活用
- 海洋・レクリエーションの活性化に向けた施設整備
- 幹線道路の整備による広域自動車交通網の形成
- 文化、歴史、景観、緑化などに配慮した個性豊かなまちづくりの推進
- 和歌山マリーナシティの集客力を活かしたまちづくり

(4) 南部地域の将来像とまちづくりのテーマ

1) 南部地域の将来像

歴史と新たな賑わいが共にいきづく海辺のまち

2) 地域別まちづくりのテーマ

① 和歌浦湾の景観と歴史を活かした観光のまちづくり

和歌浦湾は、多くの歴史的な観光資源が集積していることから、その周辺に宿泊施設が多く立地し観光地として賑わってきました。今後は観光地としての魅力を高めるため、歴史景観・自然景観の保全に努めます。また、名勝「養翠園」などの特徴ある史跡・文化財や水際景観を活かし、やすらぎとおいのある水辺空間を形成することで、海釣りや日帰りレジャーの活用を進め、他地域との交流や広域連携を図ります。

眺望や名所の保全と、開発時の適切な指導を行うとともに、都市計画法や景観法、景観条例などの法制度を活用した規制誘導手法を図ります。

雑賀崎、田ノ浦、和歌浦が連なる漁業地域では、海産物の直売など、漁業によるまちおこしを推進します。また、広域からの集客力のある、和歌山マリーナシティ、セーリング競技等の多様なイベントが開催される和歌浦湾等の観光地については、市内の観光施設との連携を図ることで、観光地の活性化を進めます。

② 港湾機能の充実と港を活かした交流の地域づくり

豊かな自然環境の中に多くの施設が立地する南部地域は、和歌山南港を中心とする港湾及び工業機能とともに、和歌浦湾に代表される様々なレクリエーション活動の楽しめる地域となっています。

そのため、海岸や各種施設を適切に維持・保全し、大型船舶の安全かつ安定的な寄港に資する港湾整備を促進するとともに、快適で娯楽の高いレクリエーション環境の形成を進めます。

また、各種スポーツイベント会場となる紀三井寺公園、和歌浦、和歌山市が主催する秋の和歌浦ベイマラソン等の多様なイベントとの連携を図り、港を活かした交流のまちづくりを図っていきます。

③ 海風の香る自然豊かな住まい環境づくり

南部地域は、特徴的な地形を有している反面、古くからの漁村や農村部では、狭い道路や、急勾配な道路などにより、独特のまちなみが形成されています。海や山を望める景観的な特徴を活かしつつ、新たに安全な避難路や避難所を確保し、地域に適した住宅環境の更新を検討します。

また、高度医療機関である和歌山県立医大附属病院が立地していることから、広域的な医療サービスの提供が可能であり、南部地域だけでなく、和歌山市全体の安全で安心な暮らしを担っていきます。

＜南部地域の部門別方針＞

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・観光レクリエーション拠点の形成 ・自然豊かな住環境の整備 ・臨海部の工業、港湾機能の振興
市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な観光レクリエーションの拠点整備 ・文化・歴史に配慮した個性豊かな住宅地の形成
施設整備	<p>《道路・交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備 南港山東線、雄湊高松線 ・鉄道やバス路線等、公共交通体系の利便性の向上 <p>《公園・緑地》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺空間の緑地整備 ・後背山地の保全 ・市街地内緑地の保全 <p>《下水道》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道（雨水）事業（雑賀、和歌浦、名草地区） ・公共下水道（汚水）事業（雑賀、和歌浦、名草地区） ・下水道総合地震対策事業（マンホールトイレ設置事業等） <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川改修の推進 ・放置艇収容施設の整備
都市景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・景勝美を持つ湾・海岸景観の保全・形成 ・緑と歴史が息づく、やすらぎを感じることのできる景観保全 ・緑豊かで潤いのある住宅地の景観形成 ・特徴的なまちなみを有する漁村景観の保全・継承
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中央卸売市場の再整備 ・漁業振興と観光活用 ・和歌の浦の保全・観光活用（国指定名勝） ・和歌公園、片男波の観光活用 ・和歌山マリーナシティの観光活用 ・和歌浦ベイマラソン等の自然景観を活かしたイベントの開催 ・セーリング・カヌー・ボート等の海洋レクリエーションの形成・活用 ・ナショナルトレーニングセンターの活用（イベント誘致） ・紀三井寺公園の広域避難所としての機能強化 ・急傾斜地崩壊、地すべり、土石流対策 ・津波対策の強化 ・建物更新困難地域における防災性向上の検討

南部地域整備方針図



凡 例

《拠点・ゾーン》



地域拠点



工業機能ゾーン



観光レクリエーション機能ゾーン

《左記以外のエリア》



主に住宅環境の整備・保全



主に田園環境・集落環境の保全